

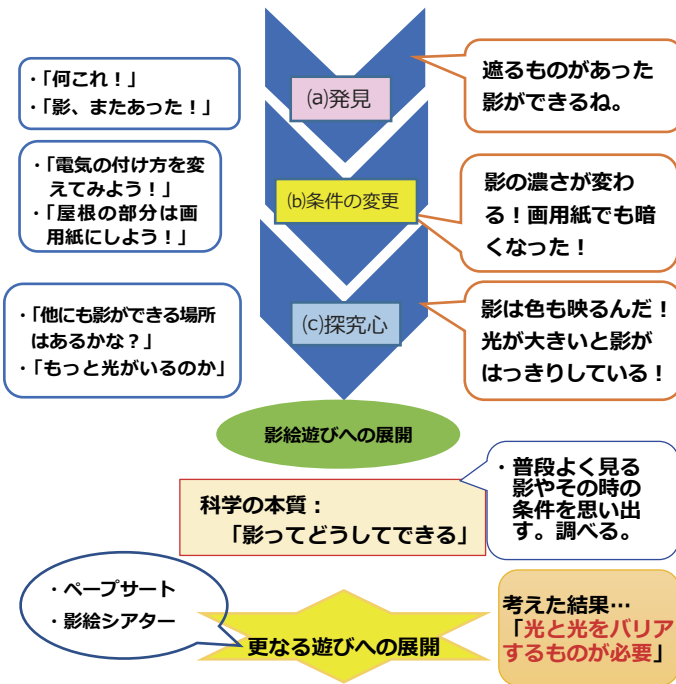
実践11 「影って面白い！」

概要 保育室に映った影に興味をもった子どもたちが、影探しや影絵遊びを楽しむことで、光と影の関係に不思議さを感じながら、探究を深め、影絵シアター作りへと展開していった実践です。

ポイント 初めは、一人の子どもの偶然の発見を、友達や保育者もみんなが興味をもって受け止めたことから、その後の遊びへと展開しています。子どもたちが考えたことが、すぐに実現できる素材や用具が身近にある環境の工夫により、子どもたちの、「科学する心」が揺り動かされて、協同的な遊びに体験が深まっています。

社会福祉法人芽豆羅の里 めずらこども園

5歳児

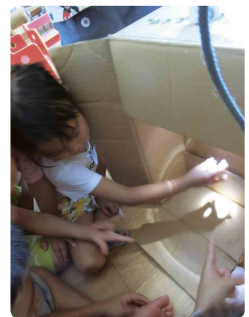


<きっかけ>

- ・ 戸外遊びから保育室へ戻ってくると、Eさんが「何これ！ 凄い！」と大きな声を出した。その声にはほかの子どもも興味を示し、Eさんが指さす方を見ると、(a)保育室の壁にモビールの影が映っていた。はっきりと映っている影に、「すごい！」「きれい！」と驚きながらも感動していた。モビールを動かすと影も動くという現象に、子どもたちの驚きはさらに大きくなっていった。
- ・ 保育室の中でも、影が映っていることに疑問を抱き始めた子どもたちは、光を探し、保育室中を見まわし始めたAさん。Bさんが影が消えたり映ったりすることに気づくと、Aさんが、「分かった！あれじゃない？ここまで光が届くんよ！」と、道路を挟んだ向かい側に止まっている車のフロントガラスに太陽の光が当たり、保育室まで光が反射していることを発見した。保育者は、子どもたちの気づきを認め、一緒に発見を楽しんだ。

<場面1：手作りの影絵シアターを作ろう>

- ・ 子どもたちの影探し、影絵遊びはしばらく続いていた。しかし、影絵遊びができるのは、戸外に出た時や室内でも影を見つけた時で、いつでも遊びたいと思った時にすぐにできない。Cさんが「じゃあ、保育室にも影を作ればいいやん！」と大きな声で学級中に提案した。他の子どもも賛成し、張り切っていた。
- ・ さっそく、保育室内や廊下にあるコーナーから段ボールを持ってきた子どもたち。段ボール箱の横に丸い穴を開け、そこに懐中電灯を差してみた。保育室の電気を消し、段ボールの蓋を閉めて暗くした状態で懐中電灯を付けると濃い影ができた。
- ・ Dさんは「見えるけど、狭いしみんなで遊べんやん…」とつぶやいた。その言葉を聞き、どうしたらみんなで影遊びができるかを考え合った。Aさんが(b)「白い紙は電気が集まりやすいけん、段ボールじゃなくて紙に光を当てたらいいんじゃない」と提案した。実際に試してみると、紙でも光が映ることが分かった。虫のペープサートを映してみると、その形の影もできた。
- ・ Aさんの「みんなで虫の劇してみたいなー！」という意見にほかの子どもも賛成し、次の日、学級で「ペープサート・話」「大きな影絵シアター」を作り始める。
- ・ ペープサートチームはどのような話にするのか話し合っていたが、まずは先にペープサートを作り、できたもので話を作ることになった。様々な虫や人、動物の形に紙を切り、広告紙をクルクルと棒状にしたものを付けていく姿が見られた。
- ・ シアターチームは、昨日発見した「段ボールでなく紙でも影が映る」ということを参考に、もっと大きなシアターを作ることになった。どの材料を使い、どのように作るか様々な意見を出し合っていたが、なかなかまとまらない。
- ・ Eさんの「紙にどんな風に作るか描いてみようや！」という提案により、完成イメージを紙に描き何が必要なのかを明確にできるように設計図を考えていった。紙に描いていったことで、イメージの共有ができた。



- ・設計図をもとに、段ボールやガムテープ、紙などを使い大きな影絵シアター作りに取り掛かった。それぞれ役割分担をして、意見を出し合いながら進めていく子どもたち。悩みながらも、様々な方法で試した。段ボールに紙を付け、その上に屋根用のダンボールを乗せると重さに耐えきれず紙がつぶれてしまった。(b)紙がつぶれず、屋根を乗せられる方法はないかを考えていると、Aさんが紙芝居の舞台を屋根の支えにすることを思いついた。試してみると、紙がつぶれることなく屋根を乗せることに成功した。
- ・他の活動を終え、保育室に戻ってみるとさっき完成したはずのシアターの屋根が倒れ、壊れていた。しかし、Fさんが、「1回、屋根がないやつでやってみよう！」と提案し、保育室を暗くして影絵シアターの劇をした。
- ・実際にしてみると、沢山映ると思っていたはずの影だったが、少ししか見えなかった。子どもたちも、「すごい！できた！」と喜ぶ半面、「少ししか見えんね…」と残念な表情になっていった。



<影絵シアターを直そう>

- ・そこで、(C)“なぜ少ししか映らなかったのか”“何が足りないのか”を話し合うと「やっぱり屋根があった方が暗くなるから屋根が必要」「光が少しだったので、もっと大きな光が必要」「光が大きい方が影がはっきりと見えるのではないか」などという意見が出てきた。翌日、(b)壊れた原因を探し、試行錯誤しながら影絵シアターの補強作業を行った。屋根に使用した段ボールは重たすぎるのもっと軽いもので屋根ができないか考えていくとGさんが「画用紙とか？ 暗い色やったら、暗くなるんじゃない？」と提案した。そこで、(b)屋根の部分は段ボールの代わりに画用紙を使った。他にも、段ボールと紙をしっかり付ける、ガムテープを使い強度を高める、シアターが倒れないように支えになるものを探すなどした。
- ・子どもたちは、壊れないシアターを作るためにはどうしたらいいか、たくさん考えようやく完成した。そして、自分たちで考えた“虫の話”の劇を演じて楽しみ、お客さん役の子どもたちからも「面白い」「凄い」と言われた。完成した時の、表情は達成感に満ちており、「楽しかった！」と何人もの子どもがつぶやいていた。
- ・影絵シアターを楽しんでいると、4歳児が興味をもって見ていた。中へ誘ってみると、近くにいたSさん・Mさんも興味を示し、一緒に入った。「どうして教室が暗いの？」というSくんの質問にGさんは「影絵で遊んでるの。一緒に見る？」と誘い、影絵シアターを見せることにした。Sさんは「凄かった！なんで紙に影が映るん？」と疑問を抱いていた。すると、Aさんは、「光を当てて、ペープサートのやつを出したら光が紙に届かなくなると影が出来るんよ。こうやって、光るところに手を当てたら、下に手の影ができるやろ？」と言いながら、分かりやすいように懐中電灯と手を使い、影ができる仕組みを優しく教える姿が見られた。



[考察] ・子どもたちは、「影絵シアターを作る」という一つの目標に向かい、試行錯誤しながら考えた。活動の中で、イメージしたものを形にしていく難しさや失敗しても原因を探し次はどうすればよいかを考え、粘り強く最後まで諦めないで取り組む大切さなどを実感していたのではないかと考える。また、自分の意見を言いながらも相手の意見を受け入れる大切さも感じていた。

- ・一人では思いつかないことでも、友達と意見を交換すると様々なアイデアが浮かんでいた。試行錯誤しながら、友達と協力する楽しさも味わえたと思われる。ペープサートやストーリーも自分たちで作って、役になりきって演じたものが、他の友達に「面白い」「凄い」と感想を言われ、受け入れられた嬉しさもあったと考える。また、年下の子どもへの質問にも自信をもって答える姿も見られた。遊びの中で学んだことを自分なりに理解し、「他の人にも教えたい！」「こんな発見をしたんだよ！」という気持ちが、自信につながった。
- ・気づきや意見を伝え合ったり、試行錯誤をしたりと、友達と協働している探究によって、科学の本質に迫る体験を深めている。活動を展開する中で興味の幅も広がり、様々な遊びにつながった。
- ・初めは「こんなところに影が！」という発見から子どもたちの遊びが発展していく姿を見て、子どもたちの発見やつぶやき、不思議に感じたことを見逃さず、もっと知りたい・学びたい・やってみようという探究心を深められるような関わりや環境構成が大切だと考える。